HOKKAIDO UNIVERSITY

| | |
|---|---|
| Title | 月刊DRF 第16号 |
| Author(s) | デジタルリポジトリ連合 |
| Issue Date | 2011-05-02 |
| Doc URL | http://hdl.handle.net/2115/73501 |
| Type | periodical |
| Note | 事務局: 北海道大学附属図書館; http://drf.lib.hokudai.ac.jp/ で公開したもの |
| File Information | DRFmonthly_16.pdf |

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

# 月刊 DRF

Digital Repository Federation Monthly

第16号
No. 16 May, 2011


【特集1】DRF新運営委員紹介
【特集2】大学図書館コンソーシアム連合 JUSTICE

その他の記事
機関リポジトリ担当係
年間計画モデル　ほか

## 特集1　DRF 新運営委員紹介

DRF は今年で設立5周年になりますが、今年度の開始時点で参加122機関のところ、さらに4機関から参加の申込みを受けています。

現場担当者が中心となって組織横断的なコミュニティが形成され、その輪が広がり続けているのは大変良いことです。機関リポジトリをめぐる研究成果の流通改善の動きを、引き続き活性化していきましょう。

**運営委員長　新田孝彦**
（北海道大学附属図書館長）

4月に長崎大学から異動してきました。ほとんど一人でIRを運営しているような人たちにとっても、DRFがあれば日本・世界のIR情勢を知ることができ遅れないでいられる、そんな安心感をもって頂けるように、有益で豊富な情報と機会をご提供するよう努めたいと考えています。よろしくお願いします。

**甲斐重武**
（広島大学図書館副図書館長）

平成23年4月から新しいDRF運営委員になりました。どうぞよろしくお願いします。震災とそれに続く計画停電の影響でしばらくお休みしていたCURATORがまもなく復活します。復活後、一風変わった研究成果をものすごい勢いで 登録する予定ですので、どうぞお楽しみに。あ、DRFもがんばります。

**島文子**
（千葉大学情報部学術情報課長）

**デジタルリポジトリ連合運営委員会（平成23年4月20日現在）**

| | |
|---|---|
| 新田孝彦（北海道大学附属図書館長） | 島文子（千葉大学情報部学術情報課長） |
| 杉田茂樹（小樽商科大学学術情報課長） | 入江伸（慶應大学メディアセンター本部課長） |
| 片山俊治（東北大学附属図書館事務部長） | 内島秀樹（金沢大学情報部情報企画課長） |
| 関川雅彦（筑波大学附属図書館副館長） | 甲斐重武（広島大学図書館副図書館長） |

## 『大学ランキング2012』に機関リポジトリランキング掲載

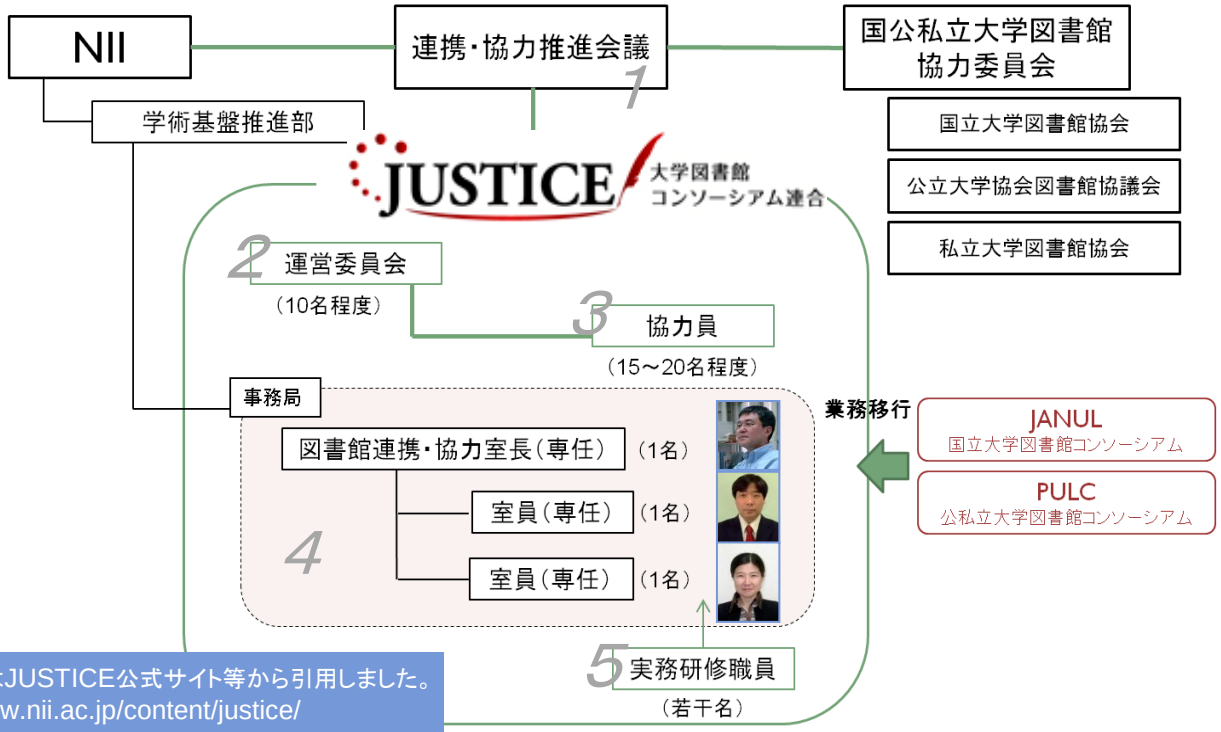
『大学ランキング2012』（週刊朝日進学MOOK）が発売されました。
例年通り、機関リポジトリランキングが掲載され、九州大学附属図書館eリソースサービス室リポジトリ係の吉松直美係長が解説を執筆しています。

「たとえば、ある論文を読んだ学生が、その研究内容に興味を持ち大学を選択したという話や、研究者が過去の論文を公開したことでそれまで何のつながりもなかった海外の研究者からのコンタクトやシンポジウム等への招聘を受けた、という話を聞いた。さらに、社会性を感じる面として、ツイッターでつぶやかれた論文や、ニュースに直結する論文のアクセス数が激増する現象を、目の当たりにすることだ。人と情報、人と人をつなぐことで誰かの助けや喜びになれることは、現在も昔も変わらない図書館職員の役目と思っている」

# 特集2　大学図書館コンソーシアム連合 JUSTICE：JUSTICEって何？

<http://www.nii.ac.jp/content/justice/>

大学図書館コンソーシアム連合（略称 JUSTICE: Japan Alliance of University Library Consortia for E-Resources）は、国立大学図書館協会コンソーシアム（JANULコンソーシアム）と公私立大学図書館コンソーシアム（PULC）とのアライアンスによる新たなコンソーシアムとして、平成23年4月1日に誕生しました。




図・文章はJUSTICE公式サイト等から引用しました。
http://www.nii.ac.jp/content/justice/

### □ 連携・協力推進会議　1

JUSTICEの運営に関する重要事項の審議を行います。

坂内正夫（国立情報学研究所長）（委員長）
古田元夫（東京大学附属図書館長）
田中成直（東京大学附属図書館事務部長）
波多野澄雄（筑波大学附属図書館長）
関川雅彦（筑波大学附属図書館副館長）
中西新太郎（横浜市立大学学術情報センター長）
大野節夫（横浜市立大学学術情報センター学術情報課長）
飯島昇藏（早稲田大学図書館長）
中元　誠　（早稲田大学図書館事務部長）
田村俊作（慶應義塾大学メディアセンター所長）
宮木さえみ（慶應義塾大学メディアセンター本部事務長）
安達　淳　（国立情報学研究所学術基盤推進部長）
青木利根男（国立情報学研究所学術基盤推進部次長）

### □ JUSTICE運営委員会　2

JUSTICEの運営に関する基本事項（出版社等との交渉方針、契約モデル、整備すべき電子コンテンツ、財源等）を策定します。
（大学図書館のこの分野に詳しい管理職を中心にメンバー選定中）

### □ JUSTICE事務局　4

JUSTICEを運営します。出版社等との交渉およびその準備、コンソーシアム参加機関への情報提供、学術情報流通に関する情報収集、参加機関の契約状況等の調査、関係団体との連絡・調整等を担当します。

（メンバーは右ページで詳しく紹介！）

### □ JUSTICE協力員　3

JUSTICE運営委員会に協力します。

（大学図書館の雑誌関連業務担当職員を中心にメンバー選定中）

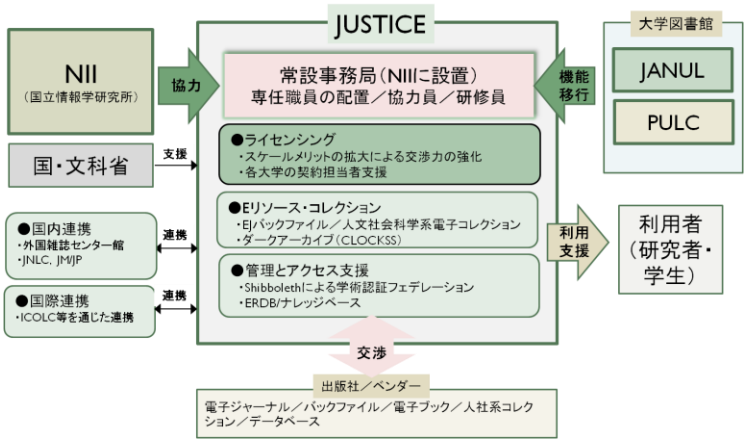
### □ JUSTICE実務研修員　5

JUSTICEの実務を研修します。

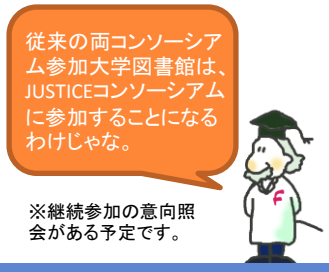
（募集準備中！）

## JUSTICEの業務と機能

JUSTICEは、「バックファイルを含む電子ジャーナル等の確保と恒久的なアクセス保証体制の整備」を推進することを主要な目的としています。この新たなコンソーシアム連合にて、今後とも、日本の大学の研究活動で必要とされる電子ジャーナルをはじめとした学術情報を、安定的・継続的に確保・提供するための活動を推進します。




左図：JUSTICE発足に際しての機能概念図。平成23年度中にJANUL及びPULCコンソーシアムの事務局機能を移行。




※継続参加の意向照会がある予定です。

電子ジャーナルとオープンアクセス・機関リポジトリは密接な関係にあります。JUSTICEの発足は平成22年10月13日に結ばれた国公私立大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力の推進に関する協定書に基づくものです。協定書では、**電子ジャーナル等の安定供給**のほかにも**「機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築」、学術情報の確保と発信に関する「人材の交流と育成」「国際連携」**等について推進することが合意されています。DRFとしても大注目していかねば！です。

# 特集2　大学図書館コンソーシアム連合 JUSTICE：　JUSTICEを語る！

JUSTICE 大学図書館コンソーシアム連合 の事務局、図書館連携・協力室にはどんな人が？抱負を含めて自己紹介をお願いしました。

## 尾城孝一事務局長

東京大学附属図書館事務部付課長（業務命令にて国立情報学研究所へ）
（自己紹介は下段をご覧ください）

## 今村昭一調査役

国立情報学研究所学術基盤推進部図書館連携・協力室調査役（早稲田大学図書館総務課調査役から）

今村昭一（いまむら　あきかず）と申します。これまで公私立大学図書館コンソーシアム（PULC）の事務局を担当してまいりました。私学から国立情報学研究所の一員となることなど、昨年の今頃は思いもしなかったことでしたが、こうした機会を与えていただきましたので、JUSTICE事務局のメンバーとして精一杯がんばります。皆様に助けていただくことも多々あることと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

## 守屋文葉係長

国立情報学研究所学術基盤推進部図書館連携・協力室係長（東京大学附属図書館情報管理課専門職員から）

東京大学附属図書館資料契約係に配属されたのが、6年前。以来、JANUL電子ジャーナル・コンソーシアムに関する業務をさせていただいてましたが、新しいコンソーシアムの設立に関わらせていただくことになるとは、夢にも思っていませんでした。事務局員として、微力ながらお役にたてるよう頑張ります。JUSTICEという連合体（と事務局）を維持するには、全国の大学図書館がこれまでのように互いに協力しあうことが欠かせません！みなさま、息の長いご支援を賜りますようお願いいたします。

# 尾城事務局長に聞きたい！　りほこの突撃インタビュー

**りほこ**：　尾城事務局長は、NIIのCSIの機関リポジトリ構築支援事業を始めた方で、日本初の機関リポジトリを構築した千葉大担当課長ですが、そもそも、**「機関リポジトリを日本に持ちこんだ人」**ですよね。あれは何年頃ですか？

**尾城**：　はい。NDLから千葉大に移った年ですから、2002年です。NDLに出向していた時に、ハーナッドが唱える「ポスト・グーテンベルグの銀河系」に感銘を受け、学術コミュニケーションの改革のために図書館ができることは何か？と考え、大学図書館に戻ったらぜひ機関リポジトリを立ち上げたいと考えていました。それが、うまく千葉大で実現されたわけです。千葉大では、国大図協の電子ジャーナルタスクフォースの仕事もしていましたが、**コンソーシアムによる価格交渉、機関リポジトリを通じた学術論文のオープン化の両方に取り組むことが現在の商業出版社に過度に依存した学術コミュニケーションのシステムに変革をもたらす道**だと思っています。しかしながら、昨今の出版社の動向を眺めてみると、うまくOAの流れに馴化してきていますね。変革はなかなか容易ではありません。

**りほこ**：　外国雑誌契約との関わりはいつ頃から？

**尾城**：　最初に担当したのは名大図書館。外国雑誌センター館の東工大勤務時代には、外資系取次店（Swets）を導入したり、外国雑誌契約の見積合わせを始めて、それまで国内の取次店にいいように占有されていた市場に競争原理を導入するなどといった仕事をしてきました。

**りほこ**：　そんな経歴を持つ尾城事務局長がJUSTICEに賭ける思いとは？特に機関リポジトリとの関わりについてお聞かせください！

**尾城**：　電子ジャーナル（EJ）も機関リポジトリもどちらも学術流通を支える媒体。これまでEJの問題は雑誌担当者、機関リポジトリの問題は機関リポジトリ担当者、別々のコミュニティで別々に活動していたような気がする。
JUSTICEは、**国立公立私立の壁を越え、日本の大学が一丸となって**大きな問題に立ち向かおうという組織。雑誌担当者だけでなくIR担当者も、図書館員みんなで関わってもらいたいですね。

**りほこ**：　**図書館員みんなで！**はDRFのキャッチフレーズです。機関リポジトリの業務は、利用者とのコミュニケーション、受入・目録、システム等、図書館の全業務が詰まっていて発展途上。誰もが関われる余地がいっぱいあります。JUSTICEとDRFがまず率先して仲良くなりましょうー。

**尾城**：　JUSTICEは、出版社との交渉が当面、最重要の仕事になりますが、交渉強化だけならJANULとPULCを合体させるだけでよかった。連携の枠組みの中にNIIにも入ってもらったのは、将来は**「購読クラブ」を超えた役割、すなわちEリソースの総合的ユーティリティとしての役割を担っていくべき**だと考えたからです。Eリソースの契約、管理、利用提供、保存、さらには人材育成などの課題にも取り組んでいきたい。それから、今の購読料モデルの枠内での交渉にとどまらず、OA出版モデルなどにどう対処していくかも大きな課題ですね。

**りほこ**：　なるほどー。今回は突撃インタビューを快く受けていただきありがとうございました！JUSTICEの今後に注目ですね。

| 尾城事務局長の勤務遍歴 | 在籍期間 | 1983.1～1988.4 | 1988.5～2000.3 | 2000.4～2002.3 | 2002.4～2005.3 | 2005.4～2009.3 | 2009.4～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 勤務地 | 名古屋大学 | 東京工業大学 | 国立国会図書館 | 千葉大学 | 国立情報学研究所（NII） | 東京大学 |

# 機関リポジトリ担当係年間計画モデル

各大学、年度明けのスタートを切ったところ。
図書館全体としてオープンアクセスに取り組んでいくには各業務とどんな接点があるでしょう？

| | 学内外の関連行事 | 業務予定 |
|---|---|---|
| 4月 | 新任教員ガイダンス | ▼リポジトリの説明と勧誘。5分しかもらえなかったけどまぁまあ言えた。 |
| 5月<br>今ココ | 平成23年度電子資料選定委員会 | ▼方々の大学ですすめてる研究室訪問、やってみたいな。年度初めの元気なうちに取り掛かろっと。月2回目標！ とりあえずいちかばちかメールでコンタクトしてみるかなぁ。<br>▼報告事項ひとつもらってオープンアクセスの動向を説明しときたいな。前のページで尾城さんも「EJもIRも学術流通を支える同じもの」って言ってたし！ |
| 6月 | CSI委託事業報告交流会（6/13-14） | ▼課長にも一緒に行ってもらおっと。今年の出し物は何かな。<br>http://www.nii.ac.jp/irp/event/2011/debrief/ に注目！ |
| 7月 | | ▼著作権の関係でIRに掲載できなかった抜刷やコピーが結構たまってきてる。どこでどう保存しておくか考えとかなきゃ。 |
| 8月 | | ▼オープンアクセスは機関リポジトリだけじゃない。DOAJにいーーっぱい載ってるOAジャーナルをOPACに収録できないだろか。夏休みで落ち着く時期にでも雑誌係と相談相談。 |
| 9月 | 科研費応募学内説明会 | ▼研究成果の普及方法の欄に「うちのリポジトリを活用して市民貢献」って書いてもらおう。10分もらえばいいかな。 |
| 10月 | オープンアクセスウィーク（10/24-30） | ▼このへんでDRF主催の機関リポジトリ担当者研修があるはず！全国担当者との接点にもなるし、うちの新任クンに行ってもらうぞ。<br>▼オープンアクセスウィークは館長にお願いして幾人か先生招いて懇談会しよっと。SPARCのサイトに登録しなきゃ。 |
| 11月 | 図書館総合展＆学術情報サミット（11/9-11） | ▼例年通り3日間みたい。同僚と手分けして行こうか。DRF全国ワークショップは何日目だろ。学術出版主催のセミナーや大学図書館界の催しも盛りだくさん。館長も一緒に行ってくれないかなー。 |
| 12月 | | ▼ここ、卒論書く4年生からILL依頼がどっと来る時期。OA論文の扱いや著作権について説明する機会を作りたいなあ。ILL担当者とリテラシー担当者と相談するぞ |
| 1月 | | ▼たぶんこの冬ぐらいにコンテンツが5,000件に到達するはず。記念インタビューするぞー。 |
| 2月 | | ▼3月の学位授与の準備作業のなかで、学位論文のIR搭載についての説明書と同意書書式を配付してくれるよう教務課に依頼するの、忘れないように。 |
| 3月 | | |

閲覧担当

2階に教員著作コーナーあるよ。著書と一緒に並べるといいんじゃない？

システム担当

このへんの時期って、学内で学会とかあるんだよね。うちの係に予稿集がよく寄贈されてくるんだけど、IRで公開できるよう、刊行元に聞いてみる？

雑誌担当

学位論文の目録記述決めてある？うちも関係するから相談しようねー

目録担当

**次号予告**

**【特集1】 平成23年度DRF活動計画 - 今年も盛り沢山で活動します**
**【特集2】 DRF参加機関紹介**

編集後記：春です。大きなことも小さなことも、ひとりで抱え込まないで。みんなで楽しく乗り越えたいです！（SSMS）